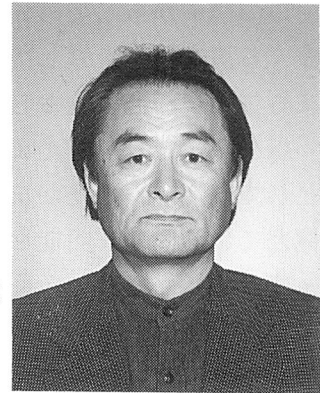


会長就任にあたって

会長 中島勇喜

会長就任にあたって、会員の皆様一言ご挨拶を申し上げますとともに、会の今後の方針を含め、日頃、海岸林について私なりに考えている一端を申し述べたいと思います。

まず初めに申し述べておきたいことは、この会が村井 宏先生を中心に石川政幸・遠藤治郎・伊藤忠夫各先生方をはじめ海岸林に携わる諸先輩方のご尽力によって発足したことであります。1992年に村井先生らによって「日本の海岸林(ワフケイソ社)」が刊行され、それまでの海岸林について総合的なまとめが行われています。したがって、この会はこれら先輩方から21世紀の海岸林をどのようにするのかについて検討するよう命題を出されており、これに応える使命を担っていると考えています。



さて、会員の皆様は勿論、すでにご承知のように、私たちの生活に密接に関係して成立していた海岸林は大きく様変わりしつつあり、それに対応する積極的方策が今求められています。

その一つが海岸林が成立する基盤自体である海岸の変貌です。砂浜、砂丘の成立はわが国特有の河川や地形・地質条件によっており、河川上流部の土砂の生産・移動と密接に関連して発達してきたものです。したがって、こうした砂地の消長は当然のことながら河川上流部と無関係ではあり得ません。1990年頃まで、土砂が堆積し前進傾向に合ったわが国の砂浜の多くが、近年以降、大幅な侵食を受け後退し続けています。大きな問題となっているこの海岸侵食は、海岸林の成立基盤そのものの危機であり、海岸林に携わる私たちのみでは決して解決のしようがない問題でもあります。このことは流域の最終部である海岸を受け持つ私たちが、その危機を河川上流部を維持管理する人々に声を大にして訴えなければならない問題ではいかと思っています。同時に、海岸林を考える私たちもまた、海岸林の多くが河川上流部と密接に関連して存在していることを念頭に置いておく必要があると考えます。

今一つは海岸林そのものですが、海岸林特にクロマツ林について、会員の多くは、松枯れ(サイセンチュウ病)、遷移、開発、手入れ不足等の問題を抱え、今後の維持管理をどのようにするのか、真剣に悩んでおられるのではないのでしょうか。これら一つ一つが大問題であり、議論したからと言って、すぐに解決できる問題ではないことは重々承知していますが、今まで、これらの問題に対してあまりにも議論する場そのものがなかったのではないのでしょうか。本学会に内容的に近い既設の大きな学会では対象間口が広すぎ、海岸林が大きな問題を抱えているにもかかわらず、その中心的課題となりにくい側面があったこともその一因だと思います。また、海岸林の抱えている今日的な問題は技術的問題の解決

にとどまらず、多くの社会的に解決しなければならない問題も含んでおり、従来の学会のいわゆる「論文」としては間口が広すぎて、まとめにくい面もあったのではないかと思います。

また、従来の海岸林と言った場合、海岸砂丘地の防災目的を持った森林が対象で、海岸丘陵地の森林についてはそれほど多く取り扱われてきていません。海岸丘陵地は我が国の海岸の構成からして砂丘地より大面積を占めており、このような丘陵地は各地の海岸を代表する潜在植生を残している場合も多く、砂丘地への広葉樹導入の重要な参考としても、また生物多様性の面からも研究の余地がおおいに残されていると思います。

以上のことから考えますと、本学会は、「海岸林の行く末について集中的に議論する場」として機能することがまず第1に重要な役割と考えます。同時に内容的には、海岸林が今抱えている問題を可能な限り直接的に研究対象とする「現場密着型の泥臭い実学的な学会」とする必要があると考えています。したがって、研究発表や投稿論文につきましても、既に結果が得られたものは勿論ですが、今取り組みつつある問題も積極的に発表、投稿していただき、会員に「こんな問題がある」という情報提供をいただき、その情報提供そのものが本学会にとって重要な「論文」とであると位置づけたいと考えています。そして、その提供していただいた問題について会員全員で同時に考える会にしたいと思っています。さらに、海岸砂丘地のみならず、海岸丘陵地の森林、加えて河川流域の森林とくに河畔林やいわば河畔林とも言えるマングローブ林など海岸林の対象領域の拡大も重要だと考えています。そのためにも、「海岸林」の定義について、会として検討し明確にしなければならないと考えています。

平成12年4月に「海岸法」が改正になり、「美しく、安全で、いきいきした海岸」を次世代に継承することを基本理念に、従来からの「防護」に加え「環境」と「利用」が基本的事項として加わりました。海岸林も従来からの「防災」目的のみならず、「環境」及び「利用」の調和のとれた海岸林をどのようにして創世していくか、今後の海岸林にはとってますます重要になっていくと考えます。このような、領域の広い海岸林を創出していくため及び海岸林が現在抱えている問題を解決するためには、海岸林に携わるいろいろな立場の方々の協力が不可欠です。大学や試験研究機関による研究だけでは、海岸林の抱えている現実的な問題を解決することは不可能です。海岸林に関わる行政関係者や市井の海岸林に興味を持つ方々、海岸ボランティアの方々、さらに直接、「林」そのものに関わりなくても海岸、港湾に関連する方々など、海岸林を取り巻く多くの分野の方々の協力が問題解決のためには不可欠だと思います。従いまして、会員の拡大は、海岸林の将来にとって非常に重要だと考えています。この点につきまして会員の皆様の一層のご協力をお願いする次第です。

最後に、会員の皆様には、現在の海岸林の抱える問題を解決し、21世紀の海岸林の行く末に責任を持てる学会として、この会が充実発展するようお力添えを切にお願い申し上げます。